第1課 補足練習の解説

1

口調上の変更に注意:

- ・(4) ×ich klingele 口調上 e が落ちる(わざわざ「強・弱・弱」にしない)
- ・(5) × du duschest 口調上 eを入れない
- ・(6), (9) du knetest, er knetet; du entgegnest, er entgegnet 口調上のeを入れる
- ・(7), (8) du beißt, du putzt 本来の語尾 -st の s がなくなる (ß や tz が [s] を含むので)

ステップアップ① ロ調上 e を入れるか入れないか

要は発音のしやすさで決まってくるわけだが、「発音のしやすさ」は語幹母音の後ろにどれだけの子音がどのように連続するかに左右される。

子音は母音との近さ (類似性) の点で以下のように順位づけられる:

母音に近い ←-----

①流音 > ②鼻音 > ③摩擦音・破擦音 > ④閉鎖音(破裂音)

 $[l, r] \qquad [n, m, n] \quad [f, v, pf, s, z, \int, ts, t \int, \varsigma, x, h] \qquad [p, b, t, d, k, g]$

語幹母音の後、子音がこの順位に沿って左から右の順に続く限りは発音しやすい。しかし、それに逆らい、右から左の順に続けば発音しにくくなるので、発音しやすいよう e が必要になってくる。

結局、eを入れるか入れないかは、以下のようにまとめられる:

- i) 語幹母音の後に続く子音の最後のものが [t] または [d]
 - → e を入れる (例) er arbei<u>t</u>et, er fi<u>nd</u>et, ...
- ii) 語幹母音の後に続く子音が上述の順位に逆らって並ぶ
 - → e を入れる (例) er rechnet, er öffnet, ...
- iii) それ以外 \rightarrow e を入れない (例) er geht, er kommt, er le \underline{rnt} , ...

2

ドイツ語は文の始まりで、平叙文(=言い切りの文)か疑問文かを示す:

- ・動詞で始まる (3),(5),(8) は決定疑問文、疑問詞で始まる (4) は補足疑問文を意味する
- ・それ以外は平叙文。その際、主語以外の要素で文を始めても、定形動詞(=主語と形を合わせた動詞)は常に2番めの要素。以下は誤り:
 - (6) × An der Tür ich klingle nur einmal.
 - (9) × Heute sie ist krank und ...
 - (10) × Deswegen ich koche für sie.

加えて (6) や (8) では人称変化にも注意:

・(8) er atmet: 語幹母音 a の後の子音連鎖 tm は「閉鎖音-鼻音」。上述の順序に逆らっているので、口調上 e が必要になる

動詞以外の要素(主語や目的語、副詞規定など)の配列は英語より日本語に似ている:

• (2) ??Ich kaufe <u>Bier und Mineralwasser heute</u>.

cf. I'll buy <u>some water today</u>. (英)

und で文を続ける場合、同一の主語は繰り返さなくてよい:

• (9) Heute ist sie krank und sie liegt im Bett.